

高地性集落と倭国大乱 ～広島湾岸を中心に～

山 田 繁 樹

(公財) 広島県教育事業団
埋蔵文化財調査室

1. 高地性集落とは

平地からは比高差があつて水稻耕作には不向きな山や丘陵の上にある集落。

山口県島田川流域を調査した小野忠熙氏が報告書『島田川』(1953) 台地や丘陵上にある遺跡を中国史書の伝える倭国の動乱情勢と関連した防御性の強い集落と考えた。(田中琢・佐原真編『日本考古学辞典』三省堂 279 頁から抜粋)

2. 高地性集落の調査

紫雲出遺跡の発掘調査(1955・56 年調査 弥生時代中期の集落遺跡・標高 352m)

大量の打製石鏃(凸基式石鏃が含まれる) → 軍事的性格を帯びた集落。

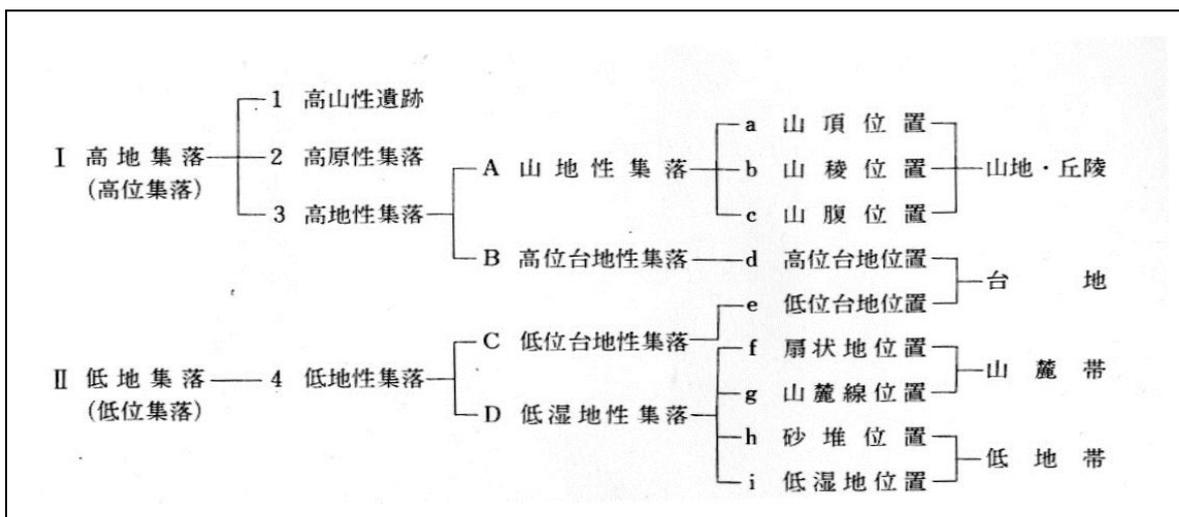
『魏志倭人伝』の倭国大乱と関連

*小野忠熙氏は畑作村落説へ「瀬戸内地方における弥生式高地性村落とその機能」『考古学研究』第 6 卷 2 号(通卷 2 2 号) 1959 年

(森岡秀人「高地性集落の研究動向」『弥生文化の研究 7 弥生集落』雄山閣 1986 年 56-57 頁)

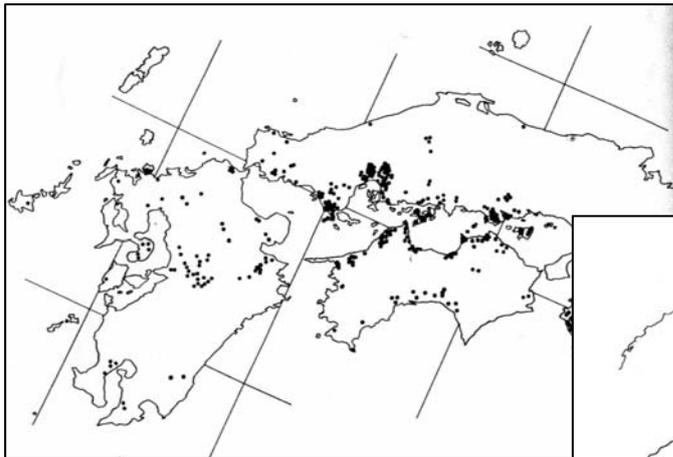
発掘調査の増加

昭和 47・48 年(1972・73) に総合研究「弥生系高地性集落址の研究」が行われた。(九州～東北地方までの広範囲の調査が行われている。)



第 1 図 弥生系集落立地の地形的位置

小野忠熙編『高地性集落の研究』学生社資料編 1979 年 12 頁

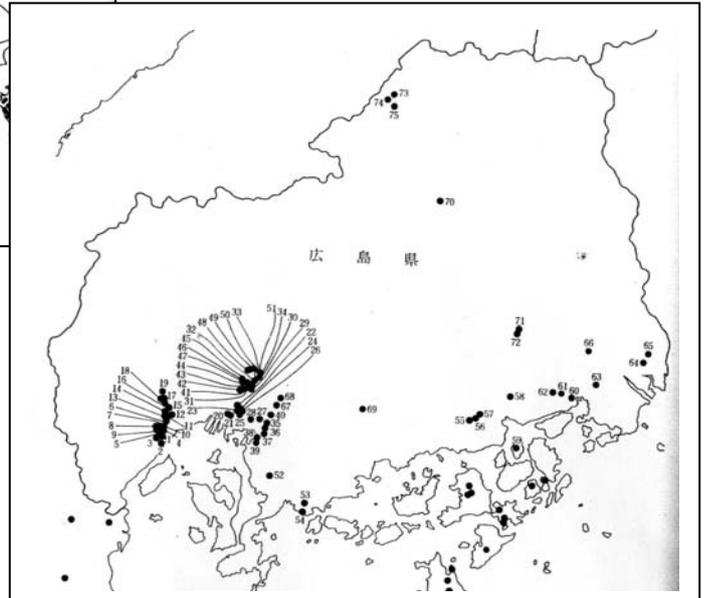


第2図

高地性集落遺跡全域分布図（西日本）

第3図

高地性集落遺跡地方別分布図（広島県）
第1・2図ともに小野忠熙編『高地性集落の研究』資料編 学生社 1979年



広島県は「高地性集落が多い地域」と認識されるようになる。

3. 広島湾岸での研究略史

乗安和二三

軍事的緊張に対峙するための施設がみられない。出土遺物が低地に立地する一般集落と差がみられないことから低地性の遺跡と同様の生活を営む。

「高地性集落の地域構造的分析－広島湾岸を中心にして－」『考古論集』松崎寿和先生退官記念事業会編 1977年

山田繁樹

乗安氏と同様の主旨で、広島湾岸の遺跡が東広島市内の調査例から太田川流域の遺跡に特異性がみられない。

「広島湾岸における集落遺跡について」『花園史学第9号』花園大学史学会 1988年

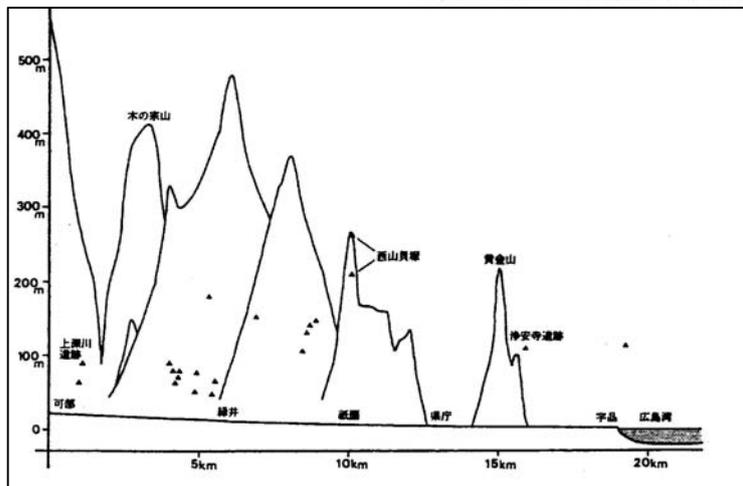
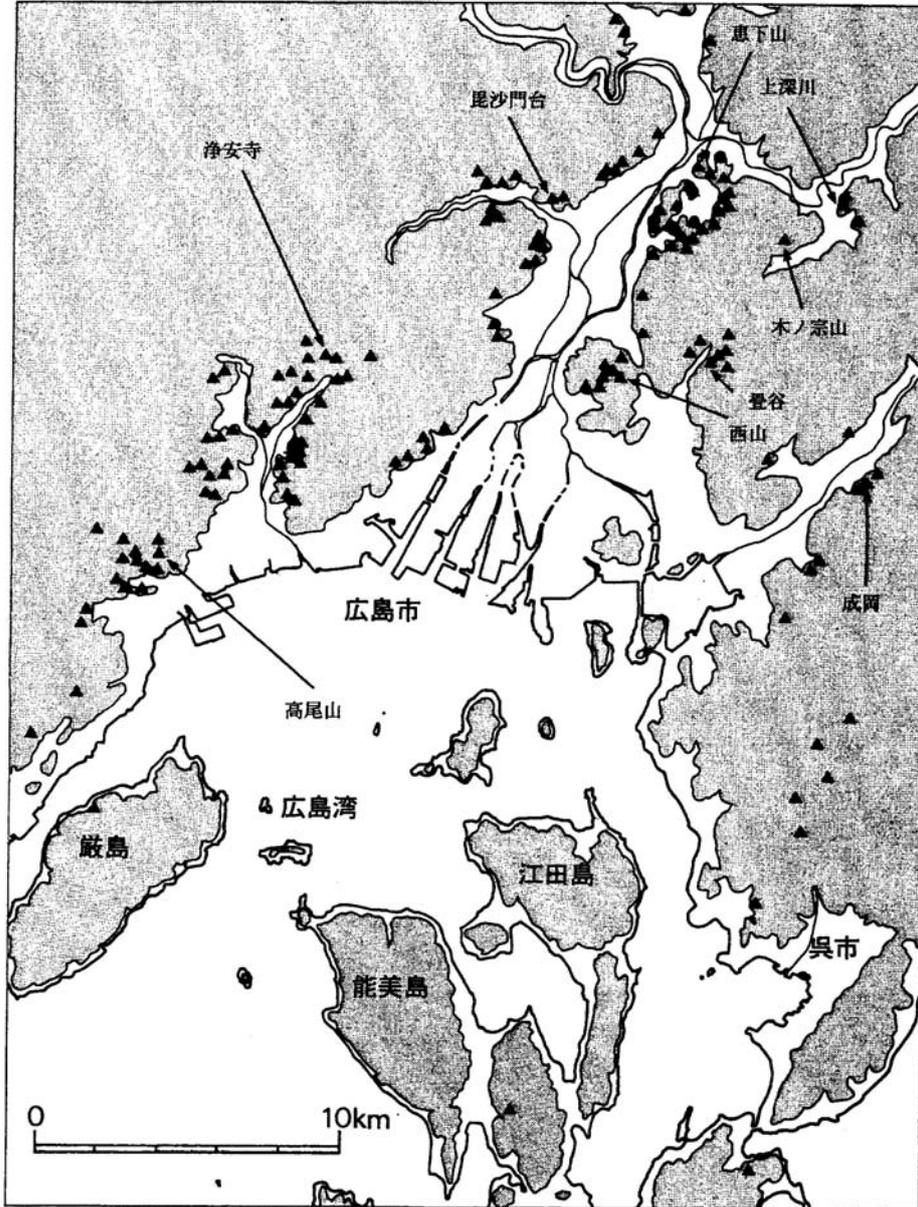
伊藤実

瀬戸内に高地性集落がさかんに営まれる時期に、海浜や低地の遺跡も継続して営まれ、内容も変質した形跡がないことから高地性集落の存在のみを過大評価はできないことを示している。物資の流通が瀬戸内の航路であることから、内海航路の情報を収集する役目をはたした。

1) 「瀬戸内の環濠集落と高地性集落」『古文化論叢－児嶋隆人先生喜寿記念論集』児嶋隆

人先生喜寿記念事業会 1991年

2) 「瀬戸内海の高地性集落解明の一視点—芸予諸島の高地性集落を中心として—」『古代文化第54巻第4』2002年



第4図

上 広島湾岸の高地性集落 (▲) の分布

* 木ノ宗山は銅鐸・銅剣の出土地

下 広島湾岸の高地性集落の垂直分布

伊藤文献 2) から

発掘調査の増加による集落遺跡の性格の分析や土器編年の進展などにより，高地性集落が倭国大乱と関連した軍事的意味合いを持つ集落とはいえなくなっている。

4. 課題

- ・出土した土器の詳細な編年作業を行う。
- ・集落遺跡の内容の分析と他遺跡との比較と検討
- ・他県との比較と検討
- ・以上のことをふまえて，なぜ，後期の段階で広島湾岸に多いのか再検討を行う必要がある。
- ・集落としての性格の分析

メモ

第1表 弥生編年

設楽博己編『三国史がみた倭人たち—魏志倭人伝の考古学』山川出版 2001年 125頁

中国	朝鮮半島	西暦	日本	九州北部	中・四国	畿内	東海	関東
春秋時代 (770)	検丹里 環壕集落	前500	縄文 晩期					
戦国時代 (403)			弥生 早期	農耕・金属 器の出現	採集・狩猟・漁撈・栽培			
秦(221) 漢(202)	無文 土器 時代	前300	I 期	最古の 犠牲者	環壕集落の出現			
			II 期	最古有力者 青銅・鉄製 武器の出現				
楽浪郡など 四郡設置 (108)	無文 土器 時代	前100	III 期	須久・三雲 の土墓	南方の 甲・盾 紫雲出山の 高地性集落	池上=曾根 の大形建物	朝日の 防御施設	
新(8) 後漢(25)			IV 期					
靈帝・光和 年中(147 ~184)	原 三 国 時 代	100	V 期	漢委奴国 王金印(57) 帥升遣使 (107)	鉄器の普及			
				吉野ヶ里 北内郭	倭国乱 卑弥呼の共立			
三国時代 (魏・呉・蜀)	国 時 代	200	VI 期			魏に遣使 (239) 卑弥呼の死 后共立 西晋に遣使 (266)		大塚の 環壕集落
			300	古墳 前期	前方後円墳の成立			